

傍聴席

市議会を傍聴して

佐々木功（角館町）

12月議会の一般質問を傍聴させていただきました。議員にとっても華やかな意義のある発言の場でもあります。また市民から重大な関心と期待をもたれる議員活動の場です。

そして自己アピールできる絶好の場面でもあります。裏には多くの支持者、多くの市民の目があることだけは忘れられない。教えてください。

質問する側、答弁する側それぞれ、思い入れがあります。TVの国会中継で真剣なやり取り、感情剥き出しの応酬をよく見ます。そこまでは求めませんが今一度の応酬を望みたいものです。

議員二人の質問時間60分では再質問、再々質問を含めて足りないような気がしました。

議員が質問することは市全体の用件を含んでいます。他の議員も、この質問は自分とは関係ない・自分の地域とは無関係というような対応が感じられました。

質問自体にも更なる突っ込んだ積極的なものが不足しているように感じ、何となく通過したようにも感じました。質問する側も今一度絞り込んだ、的確な要点での質問を期待します。

質問が終了して結果的には何が？どうなったの？どうなる

の？…というのが素直な感想です。

質問が一過性に終わることのないよう双方ともに十分な協議を重ねて欲しい、また予算も伴う事案も当然ありますので充分な審議を求めます。

一般質問、貴重な60分、市民の要望要件がびつり詰まっている60分、更なる充実を期待します。

一般質問の後にはどのような顛末となるか見定めたいと思います。

控室

12月16日の予算常任委員会終了後に議員控え室や会議室が全部使用された。

18・19日の予算委員会と本会議での討論・採決への会派内協議と意見集約の為に。会派制の議論は多々あるが、本市議会運用例では「会

派としての議案に対する表決の方向性を調整し、議案質疑から委員会審査、討論、採決に臨むこととする」とある以上、国会の政党とはいかないまでも、会派の数の力は大きい。会派代表のまとめ役としての力量の見せ所でもある。

吉田松陰は、捕縛され江戸へ送られる直前に、弟子に対して有名な「至誠にして動かざるものは、未だ之れ有らざるなり」「孟子」と言った。誠実に市民の中に入り、動き、民意を政策に反映させる重要性と決断を求められることに、幕末と平成の違いはあ

れ、政（まつりごと）に席を置く者としての心は同じものと思う。

常に将来に禍根を残す議決だけは致すまいと熟慮しながら、本会議に臨む心だけは持ちたいものである。

（熊合一夫記）



出初式での振舞餅

本年仙北市誕生10周年を迎える。議会広報も9月定例会号で創刊号から記念すべき40号になる。暫定議会から発して多くの議員が議会広報の編集に携わって来た。刺激の強い文章を掲載すれば賛同の声もあれば、批判の声もあがる。毒にも薬にもならない文面にするとも誰も読まなくなる。絶えず二律背反とも言おうべきジャンルの中で議会広報の立ち位置はどうあるべきなのか、当局との距離や緊張関係はどうあるべきなのか、編集委員は悩まされてきた。当委員会でも井の中の蛙でならずと、昨年全国議会広報コンテストで最優秀賞を獲得するなど、活躍が目覚ましい山形県庄内町に先進地研修をしてきた旨を9月定例会報で報告し、本紙の刷新を宣言しましたが16ページという枠の中、見出しを大きくしたり写真を多用するとその分、文章の文字数が制限されるという制約に喘ぎながら試行錯誤を繰り返して、少しでも見やすい、読みやすい広報になるよう頑張っていますので本年も忌憚のない助言を宜しくおねがいします。

（阿部則比古記）

編集後記